夕張市議会議員 **くまがい桂子**（日本共産党）の**市政レポート「ユーパロの風」** 発行所：夕張市常盤 7-12 **Tel &Fax** 0123-52-1013 mail: kumagai.keiko@gmail.com

夕張市議会議員 くまがい桂子の 市政レポート
『住民自治で 夕張再生を』
ユーパロの風
2013/11/24号

■子どもたちの学校で、また市民サービスを一手に担う市役所で、今、現場が大変な状況です。
■11 月 21･22 日総務省をメインに、厚労省・文科省・国交省などの政府交渉に行ってきました。今回は、聞き取り調査を行った、学校現場・市役所現場の声を中心におつたええします。

地域の過渡期～子どもが落ち着いて学べるよう、手厚い人員配置が必要！

11月21・22日の二日間、日本共産党の紙智子・大門みきし両参議とともに政府交渉を行い、夕張市から私、くまがい桂子市議が参加、夕張の実情を赤裸々に訴え、改善を強く要請しました。

◆ ◆ ◆

■学校教育の問題

…父母、保健師、校長先生より聞き取り

（1）教員の加配・特別支援員の増員を！

・これまでの各校での少人数学級から、急に40人学級の大人数になって、各学年に1～2名の不登校、一斉授業についていけない子もいる。
・集中できない子、指示を理解できない子、言語の発達が遅いなど、それぞれの子どもたちの発達を保障する学校教育を。
・子どもたちが落ち着いて授業が受けられるよう、少人数学級・支援員の増員など、一人一人を大切にする教育環境を。
・小学校で最低でも4～5人の支援員が必要～学力が落ちている。
・中学校では、最低でも2～3人の教員の加配又は支援員を。子どもたちの将来に向けて自信をつけてやるために、できるだけ少数体制で、ていねいな指導が必要。
・現在夕張市のおかれている特殊な環境や、不十分な教育環境も人口流出の一因。

（2）準要保護（就学援助）の枠拡大を！

・学用品・教材・給食費・修学旅行費用の支払い困難な家庭が増加～雇用が少なく収入激減～働きたくても働く場がない。
・経済基盤と、地域で働く先輩たちが見える状況で、子供たちに夢を持たせ、そのために学ぶ～希望をもたせてやりたい。

（3）地域に雇用を！

・必要な仕事をこなせない～人員不足。
・せっかく育てた人材も他の仕事が見つかったらすぐやめる。
・低収入で仕送りが困難。子どもの進学の際に家族で引っ越し、父親が遠距離通勤（通勤費は市内のみ）
・若い人が働ける場に（高卒で12万）～自立・結婚できない。
・嘱託は10万円以下
・給料は安く手当ては薄い↓せめて手当ては元の給与水準で月数は国並みに。

（3）地域に雇用を！

・30代（子どもあり）年間90万円のカット。月4万・ボーナスで30万円の住宅ローン。H19に100万円の貯金がゼロに。薄給・残業・休日出勤・子育て環境のよくない夕張で家族を守れるのか、非常に不安。
・求人情報をチェックする職員の激増、履歴書を出す人も。（家族への責任感）

・組織として崩壊寸前、限界にきている。

■財政破綻の国・道の責任・企業の責任を明確に、債務縮減、再生計画の期間短縮を！

◆ ◆ ◆

以上のような現状をお話した後、「炭鉱閉山処理対策費（住宅・浴場・水道・学校・道路）」は総額5８３億円のうち、国・道補助金は１８５億、市の地方債は３２２億。**国のエネルギー政策の転換の結果責任・閉山処理負担は、本来、国と企業が負担すべき**もの。「赤字隠し」も国・道の容認で実行（市議会議事録に記載）→**赤字の巨額化を招いた責任**もあることを改めて述べ、改善を強く要請しました。

大門参議員も、明白な「国の責任、道の責任の分担」として、市民生活と職員体制・待遇の改善を強く要請しました。

＝市職員：低収入で家族に責任が持てない・多忙で心の疾患が激増、崩壊寸前！＝

■市職員の問題

…保健師・幹部職員・若手職員より聞き取り

（1）健康で安心できる職場に！

・仕事量の増大により、精神疾患・心の問題などで4人休職↓他の職員の仕事量が増加↓疲労・ストレスなどで、心の病、仕事の効率低下など。
・他の職員とかばいあえる余裕がない。
・自分がつぶれたら終わり～追いつめられて仕事をこなす日々。
・心の疾患激増（各係に一人はいる）元気で働ける人はゼロに近い。
・新人に教える余裕がなく、新人職員の退職もあった。

（2）賃金を保障し市民の安心・安全を！

（3）地元の人間を採用し、人を育てられる体制に！